

公表:平成31年3月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		10人以上の利用になるとロッカーが不足したり個別のエリアを使用するのが難しくなるため別訓練室や他部署のスペースを借りて活動をしている。屋外活動では公共施設を利用する事もある。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		国の指定基準に沿った職員配置をしている。有資格者(社会福祉士、保育士)を配置し丁寧な療育を提供できるよう努めている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		子ども達の特性に合わせた構造化を行っているが、入り口に段差があったりエリアごとに仕切っているため足元の不安定な子どもに対しては1対1で見守り手をつないで誘導するなど配慮をしている。療育に必要な持ち物や準備物等に関しては視覚化した文書でお知らせするなど子ども達にも保護者にもわかりやすい伝え方を心がけている。
	④	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		限られた空間を有効活用できるよう整頓を心がけているが学習エリアに課題を置くスペースが足りず煩雑になることがあり今後改善を要す。集団活動を行う場合は子ども達の動作に適した空間を室内、屋外に設定している。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	○		全スタッフ、半期に一度 業務目標を設定し自己・上司評価を行い振り返りをしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者向け事業所評価のアンケートを実施し意向等の把握を全スタッフで共有している。苦情や不明な点として上がった案件については速やかに対応、改善を図るようにしている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所のホームページ等で公開しているか	○		今年度より自己評価を実施し、入り口に掲示している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	今後、取り入れる可能性はあるが時期は未定
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		地域療育センターの施設支援事業で県子ども総合療育センターの専門職員(言語聴覚士・心理療法士・作業療法士)に来所してもらい定期的に研修、支援を受けている。その他、園内外、自主研修等積極的に参加している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		アセスメントは児童発達支援管理責任者、担当職員も同席して行い、ニーズや課題を整理。支援計画(案)についてスタッフで会議を行い作成している。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		使用しているが利用者によっては該当しない項目もあるため、本人の状況を加味して聞き取りを行っている。家族・本人の基本情報は一年に一度前期面談で取り直しを行い変更があれば後期面談で追記、訂正を行う。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		子ども・保護者のニーズ、課題から必要な必要な支援内容や優先順位を考えて「提供すべき支援」を設定している。「家族支援」はあおぞらと共通した取り組みや家庭で出来そうなことを盛り込んでいる。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		具体的目標・支援内容を日々の療育のねらいにおとし取り組んでいる。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		個別のスケジュールは担当職員が組み立てているが集団活動や戸外での活動は皆で話し合い内容を決めている
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		外部専門家の助言をもらったり研修で学んだことを取り入れている。今後も、子どもの発達状況、年齢に応じ、楽しめる活動を工夫していく。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	○		集団参加が難しい子どもに対しては、まずは個別での活動を中心にすすめ状況を見ながら徐々に集団を意識した活動内容も取り入れていく。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を等を共有しているか	○		全スタッフ揃うことが難しい日もあるが、朝礼で引継ぎや送迎について確認を行い情報を共有するようにしている。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		送迎以外の残留スタッフで行うことが多いが翌日に報告したり時間を設けて共有している。
	⑲ 日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		個々の担当スタッフでその日のねらいを設定、評価をしながら翌回のねらいを考えているが、チーム全体での検証・改善についてはレベルアップが必要。
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		必要性は意識しているが、週1回利用の方などは目標に対しての達成時期を3ヶ月以上で設定している場合が多いので評価の判断が短期間では難しいところがある。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		直接支援に携わっている担当職員が出席している。
	㉑ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		関係会議等で情報共有を行い、共通の方向性を図っている
	㉒ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当していない。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当していない。てんかんやアレルギーがある児の情報は必ず聞き取りをし把握している。
	㉔ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		移行支援だけでなく普段から必要に応じ保育所等で関係会議を開いたり、先生方が本人の様子を見学に来られたり、保育所等訪問支援で訪問支援員が保育中の様子を見学・話し合いを行うなど相互理解を図っている。
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		全ての利用者に移行支援会議が実施されているわけではないが関係機関との間で情報共有は行っている。
	㉖ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		圏域の療育相談員の助言を受けたり、県こども総合療育センターの専門職より定期的に支援を受けたり、熊本県北部発達障害者支援センターわっふるの研修に参加している。
	㉗ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	殆どの利用者が保育所等に通園しており機会は設定していない。センター内で老人や生活介護利用者との交流はある。
	㉘ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		子ども部会に児童発達支援管理責任者が参加している。(年6回開催)
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡帳や電話、送迎時に子どもの様子についてお伝えし共通理解を持って取り組んでいる。
㉚ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		ペアレント・トレーニングは行っていないが、家庭の状況に応じて自宅を訪問し、面談、困りごとへの対処を提案したり共通の手順書を用いて関わり方の助言を行っている。	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	重要事項説明書で具体的な内容説明を行っている。利用負担金に関しては、別紙単価表を作成し、利用料の内訳(加算の内容説明、金額等)を示し、配布、保護者確認後署名を頂いている。職員体制等で変更が生じた場合は重要事項説明書を訂正し保護者に通知している。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	ガイドラインを示すことはしていないが、ガイドラインで掲げられている「提供すべき支援」の項目内容を盛り込み本人に必要な支援を選択して作成。説明を行い同意を得ている。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	面談や連絡帳、送迎時に家庭での対応で困っていること等の相談をうけている。家庭で取り組みそうなことをスモールステップで優先順位を考えながら助言している。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	現在、父母の会や保護者会の運営はない。年に一回年長児対象に親子遠足を実施しており保護者同士の交流も目的としている。単独型通園のため保護者同士のつながり、交流の場を検討していく必要がある。地域で保護者向けの研修会等あればお声掛けしていく
	③⑥	子どもや保護者からの申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	苦情受付の体制を整備し重要事項説明書に記載、保護者に対し説明を行っているが子どもには周知されていない。相談や要望が上がった際は職員間で共有し対応・改善を図っている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	個別療育を行っているため、活動の様子(外出・調理・季節のイベント等)は一人ひとりに写真を渡したり、お知らせをしている。全体に向けての連絡事項は文書で発信している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	個人が特定される書類等は郵送や手渡し、シュレツダーでの取扱いに気を付けている。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	子どもたちとコミュニケーションを取る際はその子どもの状況に応じ写真や絵カードの使用を行う。また、選択肢の提供や短い言葉で具体的に伝えるなどの配慮を行っている。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	昨年 精粹園での秋祭りには保護者に案内を出し数名の家族が参加された。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	防犯、地震マニュアルは未策定。訓練実施に関しては保護者に周知出来ていないため重要事項の説明時や連絡帳等でお伝えしていく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	火災訓練は年に2回センター全体で実施。水害訓練は来年度予定。その他の訓練やいろんな場面を想定した避難が今後必要である。実際取り組まれている事業所等の事例を参考にして事業所独自のマニュアルを策定する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
非常時等の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		アセスメントシートを使い確認を行う。面談時にも聞き取りを行い変更あれば追記する。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	面談で保護者からの聞き取りにより対応している。おやつはアレルギーのでない物を提供。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		事例として件数は少ないが、日頃からヒヤリハットにつながる気付きを出し合う必要がある。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか		○	法人内研修では年に一回行われているが当スタッフ全員はまだ参加できていない。毎年1名ずつでも参加できるよう工夫する。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	身体拘束にかかる行為については組織的な話し合いと判断が必要。その上で保護者に説明、了解を得よう努める